

穂 学

平成29年度

広州日本人学校学校便り

[No. 11]

平成30年1月16日(火)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

誉めて伸ばす、個性を認めて伸ばす

校長 丸本 互

新年、あけましておめでとうございます。

先日の始業式の中でも話しましたが、私の正月の楽しみの一つに、箱根駅伝をゆっくりテレビで観戦することがあります。今年は、青山学院大学の4連覇で幕を閉じました。そんな中で気になったのが、復路7区の東京国際大学の渡辺和也選手でした。渡辺選手は30歳。社会人の陸上競技で活躍し、5000mの世界陸上にも出場したほどの選手です。その渡辺選手が陸上の指導者(先生)になりたいという夢を持ち、29歳にして大学を受験して合格し、箱根駅伝の代表となって箱根路を走っていたのです。夢を追いかけ実現に向けて取り組んでいる姿を見て感動しました。

渡辺選手が夢として描いている指導者にもいろいろなタイプがあるように思います。そして、一流と呼ばれる選手達には必ずといって良いほど、素晴らしい指導者がいます。ここでは、マラソンの小出監督と、野球の仰木監督の話をしたしたいと思います。

シドニーオリンピック女子マラソンで金メダルを勝ち取った高橋尚子選手とオリンピック2大会連続でメダルを獲得した有森裕子選手は共に小出監督の教え子です。二人の選手と小出監督の関係は、指導する者とされる者の関係に於いて多くのことを示唆してくれています。監督はよく選手を誉めるのだそうです。有森裕子選手が監督の下に来た当初は、走るフォームはべた足で、中学生位の記録しか出なかったのだそうです。しかし「このべた足は坂道にはもってこいだ。坂道のある競技のマラソンに挑戦すればいい。」と誉め、結果2大会連続のメダル獲得につなげたとのことです。また、高橋選手は典型的な女の子走りの上、記録も平凡で陸上的には誉める所が全くなかったそうですが、生活面のまじめさや練習に取り組む姿勢など、良いところを探して誉めまくったのだそうです。その結果が金メダルの獲得に繋がったのです。

一方、野球界では仰木監督の指導法が有名です。仰木監督の教え子としては大リーグで活躍した野茂英雄投手とイチロー選手がいます。二人とも独特のフォームで成功した選手です。指導者はとかく、悪いところを直そうとしますが、それは場合によっては、その人のもつ個性を殺すことになります。野茂投手のトルネード投法やイチロー選手の振り子打法などは前任の監督やコーチに受け入れられず、直すように指導されていました。仰木監督は、二人の選手の個性と強い意志を認め、フォ

ームを変えなかったのだそうです。大リーグで活躍したこの二人にとって、仰木監督との出会いがなければ、平凡な一選手で終わっていたかもしれません。こう考えると、良き指導者に会えるかどうかは、その人の人生を大きく左右する事になります。

「誉めて伸ばす小出流。」「個性を認めて伸ばす仰木流。」

どちらも、無限の可能性をもっている子ども達を伸ばすのに最善の方法のように思えます。私たち教師は子ども達を育てていく上で是非参考にし実践していきたいと思えます

今年も、広州日本人学校の活動に、ご理解ご協力をお願い致します。



書き初め大会

1月12日の5、6校時、小学部4年生と中学部が、体育館で書き初めに挑戦しました。墨や筆を使って、文字をバランス良く書くことに、苦戦している様子でしたが、子どもたちは集中して一生懸命課題に取り組んでいました。それぞれの文字に子どもたちの個性が溢れていました。（課題は以下の通り。）

小学部4年 「心に太陽」 中学部1年 「新たな決意」

中学部2年 「誠を尽くす」 中学部3年 「新春の誓い」

